

会 議 録		令和 5 年 6 月 30 日 作成	令和 9 年 3 月 末 日 廃 棄
会議名	京都府山科警察署協議会（令和 5 年度第 1 回）		
開催日	令和 5 年 6 月 20 日（火曜日）		
時 間	午後 2 時 30 分から午後 4 時 30 分までの間（120 分）		
場 所	京都府山科警察署 署長室		
出席者	古川会長、西川副会長、川中委員、一原委員、角田委員、有本委員、山下（恒）委員、樋口委員、井内委員、三谷委員 （欠席 山下（明）副会長、西村委員、浦野委員） 計 10 人		
	署長、副署長、会計課長、警務課長、地域課長、生活安全課長、刑事課長、交通課長、警備課長、広聴・相談係長 計 10 人		
諮 問 事 項	山科警察署管内の治安情勢について		
会 議 内 容	1 会長挨拶	司会	副署長
	2 署長挨拶		
	3 協議	司会	会長
	(1) 諮問事項説明 山科警察署管内の治安情勢について～署長 【委員】最近強盗事件が頻繁に起きているが、山科署管内ではどうか。 【警察】山科署では、今のところそのような届け出はない。 特殊詐欺や強盗などは闇バイトで実行役を集める手口が多く、主犯にしてみれば実行犯が逮捕されても痛くもかゆくもない。 10回失敗しても、11回目で大金が稼げればいいので、今後も強盗は増えると思われるし、金融機関強盗なども発生するおそれがある。 【委員】昨年の特種詐欺の発生が、京都府下で山科署が一番多いとのことだが、その要因は何か。 【警察】1年間を通してまんべんなく発生していた訳ではなく、秋口から急激に増加した。 最初に1千万円を超える被害があり、その後被害が続いた。 同様の手口による被害が多く、山科署管内で犯行を繰り返していた		

会 議
内 容

グループ数は少ないと思われるが、そのグループに「山科はまだまだだませるぞ」と認識されて、週に2、3日、集中的に電話がかかってきた。

犯人グループも「今日はこの地区」と決めると集中的に電話をかけており、1件だめなら次、また次と電話をかけ、認知した分だけでも1日に10件を超えることもあり、認知していない分を含めると相当な数の電話がかかっていたと思う。

このように集中的に電話された結果、だまされる人もそれに応じて増えた。

年明けまではそのような状態であったが、最近では電話がかかってくるのが少なくなった。

地元の方も警戒心が強くなってだまされる人が減り、他の地域に電話をするようになったのではないか。

【委員】現場の受け子の報酬は、先にもらうのか、後でもらうのか。

【警察】交通費は先に出す場合もあると思われるが、一般的には成功報酬であり、後でもらうことが多い。

【委員】受け子の家庭環境は、どのようなものか。

【警察】経済的に不自由な家庭が多く、一部学生もいるが、正規の職業に就いていないフリーターや無職の者がお金目当てに受け子になる。

【委員】荒っぽい手口で、目立つような白昼強盗をする者が増えているが、その要因や社会情勢の影響はあるのか。

【警察】よほど確実な情報があるのではないか。

個人の資産家の所に行く強盗もあったので、そういう確実な情報が取れたのではないか。

また、強盗は人数を必要としないからではないか。

特殊詐欺は一人でだますことはせず、まずグループを作って色々と指示を出したりするが、強盗であれば少人数で済み、確実な情報さえあれば「ここへ行け」と指示するだけでよいからではないか。

【委員】特殊詐欺や強盗の大元は、どのような人物なのか。

【警察】大元にはたどり着けていないが、最終的にお金は暴力団に流れているのではないか。

【委員】そのような強盗は、拳銃やナイフを持っているのか。

【警察】闇バイトで集めたメンバーに拳銃を渡すことはないが、何か道具は持っていると思ったほうがいい。

危険なので、遭遇しても捕まえようと思わず、距離をとって写真を撮るか、逃走方向などを覚えて通報してもらうのがいい。

【委員】犯行現場で動画撮影する人が多くいるが、抑止力になっているのか。

会 議
内 容

【警察】防犯カメラが増えたことは、一定の効果があると思う。

【委員】犯人を追える確率は高くなっているのか。

【警察】なっており、映像が残っているのは非常に良いことである。

ただ、犯行自体を録画するのは非常に危険なので、逃げているところを録画してもらえればいい。

【委員】交通事故については、歩行者をはねる事故が多いとの事だが、無理な横断が多いのか。

【警察】そのとおり。

【委員】新十条通など、片側に2車線ある道路で、信号や横断歩道のないところを横断する高齢者が結構いるが、そのような横断者に警察は注意をしているのか。

【警察】横断の指導には力を入れており、指導をすれば報告を上げるようにしている。

【委員】家族に車椅子や老人カーを使用している者がいるが、横断歩道までが遠く、不自由な人に大回りしろと言われるのが非常につらい。高校生が集団で自転車通学しており、猛スピードで斜め横断をしたりする。高校生はヘルメットをかぶっていないが、学校でヘルメットを配ることはないのか。

【警察】なかなか強制は難しい。

【委員】努力義務だからか。

【警察】それもあるが、色々な家庭があり、ヘルメット1個でも何千円もすることも理由である。

自分の学校だけヘルメットを義務化し、突出して厳しくするのはなかなか難しいようである。

【委員】小学生がかぶっているヘルメットは支給されているのか。

補助金が出ているのか。

【委員】学校にもよると思うが、支給は聞いたことがない。

交通安全の会議や他の学校から聞いたりすると、やはり、努力義務義務ということで、言い難いところがある。

本校の自転車通学は許可制にしており、ヘルメット着用の努力義務を忠告しているが着用は少なく、京都市内の学校に聞いても、各校でヘルメットを着用しているのは、1人、2人くらいという状態である。

【委員】小学生相手に、地元の方がヘルメットを着用しようという授業をしていると聞いている。

学校からは言い難いが、地元住民であれば思い切って言うことが出来るので「家に帰れば、両親にヘルメットを買ってと言いや。」というくらいの感じで言える。

会 議
内 容

山科には自治連合会があるので、自治連合会の皆さんがそのような形で、子どもが小さい間に交通安全教室や防犯とかパレードとかいろいろなことをしているのが、今の防犯意識、規範意識の向上に、それが結局犯罪の抑止力につながっているのかなというのが、管内の感想である。

【委員】自治連合会が主体でイベント等の取組をしているのか。

【委員】自治連合会が、小学校の授業で自転車の乗り方の講習をしている。

何年か前だが、ある小学校では交番の方と協力し、学校に不審者が侵入してきたと想定して、先生が刺股で応戦し生徒が体育館に逃げるという真剣な訓練をしたり、地域をあげて子ども達を守る取組をしていた。

山科の子ども達が良くなってきたのは、そういった、地域をあげて取り組んでいるからだと思う。

【委員】前回もヘルメットの話が出ていたが、学校での取組はどうか。

【委員】やはりいろいろな家庭があり、学校にはそういう権限もなく弱い立場なので決定権がない。

地域の方から盛り上がってくると大変ありがたく、学校をどんどん巻き込んでもらおうと、学校もすごく乗り易い。

学校主体となっていると、逆に地域の方が動いてくれなかったりするるので、学校としては地域の方から巻き込んでもらう方がやり易い。

特殊詐欺についても山科署からどういう手立てがあるかという話があり、高校生にも協力を求めた結果、高校生に出来ることとして動画製作をしてもらい、現在、学校の公式インスタグラムに配信している。

警察からは、区役所、病院、事業所といった所に流してもらえると聞いている。

学校でも朝に昇降口のところで流しているが、その目的は、高校生が自分の祖父母に「危ないよ。」と伝えることである。

生徒から「自分のおじいちゃんおばあちゃんに言ったで。」と言われたので、動画自体は高校生に効果的だと思う。

また、受け子や闇バイトに関しても高校生に聞いてみると「先生これ絶対闇バイトやで。」と言って携帯を見せてくれることがあり、見てみると闇バイトとしか思えない内容だった。

本校ではアルバイトは許可制ではなく届け出制であるが、アルバイトと検索すると、AIが判断して携帯にどんどんアルバイト情報が入ってくるようになり、そこに闇バイトが入り、高校生が受け子にもなるのかなと思う。

しかし、生徒が闇バイトの情報を見せてくれるようになったのは、

会 議
内 容

特殊詐欺の動画製作という活動に参加したからだと思う。

自転車盗も多いとのことで、昨年12月に交通課と一緒に二重ロックの声掛けをさせてもらったり、色々なところと連携させてもらっているが、一番は地域の方と一緒にというのが学校としての思いであり、学校独自となるとなかなか広がらない。

鹿児島でペイペイの事件を起こしたのが高校生であり、犯罪の低年齢化が進んでいると聞いている。

【委員】ヘルメットの補助は、どこかから出るのか。

【警察】対象が多く出所がない。

【警察】防犯カメラも、最初は「何で人の姿を映すのか」と言われたが、設置数が増えていき、最終的には今回のひき逃げ事件でも協力を得て付近の防犯カメラを見た上で犯人が特定出来たように、自転車ヘルメットも啓発から始める必要がある。

警察だけが啓発をするのではなく、山科区役所の行政の方にも協力してもらっており、学校に安全教室で出掛けた際にも実際にかぶってもらったりしている。

当署でも、出入口に借りてきたヘルメットを展示しており、実際に手に取ってもらっている。

値段はピンキリだが、かぶってみて「やっぱりいいな」と実感してもらい1人でも多くの方に買ってもらえるように広めていくことが大事である。

【委員】高校生は見た目重視なので、絶対に「髪型が」と言う。

【委員】北部の方とか、京都以外ではかぶっている子も多い。

やはり、小学生に対する補助とか交通安全が必要で、そこからスタートすると、スタンダードになっていくと思う。

【委員】義務教育の中学校までは、なんとか頑張ってお金を出してほしい。

【委員】ネットで補助制度を調べたところ、京都府交通安全協会が補助金を出している。

期間は5月1日から6月30日までで、1件につき2千円の補助が出るが、抽選で110件までとなっている。

【委員】朝のラッシュ時の三条通に、目に余るほど多くの横断者がいる。

真っ直ぐな道路を作ってしまい、見通しが効いているので、三条通は短い間隔で横断歩道があるのにもかかわらず、それを利用せずに横断する人がいるのではないか。

また、京都の信号機は、横断歩道の点滅がすごく短い。

黄色の間隔も短い。

人の安全を優先するのなら、もっと長くするべきではないか。

会 議
内 容

横断歩道を渡りきれない高齢者がおり、何度か車を止めたことがあるが、それぐらい点滅してから消えるまでの間隔が短い。

滋賀県のように点滅信号の間隔が長いと、横断歩行者は安心して渡れる。

横断歩道がかすれているところがあり、夜間や降雨時に、横断歩道を見逃すドライバーもいるのではないか。

横断歩道があるから、人の安全が確保されている大前提があるので、予算を使って横断歩道を修繕してほしい。

【警察】横断歩道だけでなく、標識の剥がれ等については、随時、府警本部に上申しており、順番になるが対応させていただくので理解願いたい。

信号の間隔については、交通の安全と円滑を図るということから周期を変えており、同じ交差点でも昼間と夜間では長さを調整している。

【警察】歩行者信号の点滅の時間が短いとのことだが、点滅が短いのではなく他府県に比べて京都市は青の時間が長く、いつまでも渡り出すので途中で赤になってしまう。

他府県では、信号待ちの人達が渡り出したら点滅し出す。

後から渡り出すのはダメで、信号で待っていた人だけが渡れるような感じになっている。

ただ、渡れる時間が短く、信号待ちの時間が長いので、その辺の兼ね合いがある。

個人的には、早く点滅にした方が、後から走って渡り出す人も減るだろうし、左折待ちの車が信号が変わるまで行けない状況がなくなると思う。

【委員】自転車事故は、横柄な運転をする者がすごく多い。

逆走は当たり前で、電動自転車で歩道の人の間を縫うような走り方をしている者もいる。

運転免許を持っていなければ講習も受けていないので、正しい運転の仕方が分からないのかもしれないが、大阪では自転車でも取締りを行っているのがニュースで流れている。

京都でも行われているとは思いますが、事故の多い場所を重点的にするとか、危険な場所を調査して取締りや注意をすれば、効果が上がるのではないか。

小学1、2年生くらいまでは判断力がなく、ヘルメットが必要だと思うが、それ以後になると交通対策協議会や警察官の講習で、ある程度理解出来ると思う。事故が起きないような仕組みが必要で、乱暴な運転をする人を、少しでも減らしていける活動が出来ればいいと思う。

【警察】自転車の指導重点路線があり、確かに取締りの件数はまだまだ少な

会 議
内 容

いが、今後、強化していく。

自転車のマナーや意識は向上しており、左側通行が浸透していけば、正面から走ってくる右側通行の自転車が許せなくなり、取締り要望も増えていくようになるので、今後も取締りは強化していく。

【委員】自転車盗に関しては、多分地元の人々の犯行だと思うが、車上ねらいは他府県の人が来てやっているのか、これも地元の人々の犯行なのか、検挙事例からどうか。

【警察】他府県から流れてきた人が犯行を敢行することが多いが、地元の人々が単発的に行う場合もある。

広域にわたる場合は、検挙が難しくなる。

【委員】最近エコバッグが増えてきたり、セルフレジになってきたので、高齢者で窃盗をするつもりではなかったのに窃盗をしたり、元々窃盗するつもりで窃盗をする人が増えて、スーパーの人が大変であるとテレビで見たが、山科署ではどうか。

【警察】万引きをするつもりがなくて万引きをしてしまった人はおらず、皆、万引きをするつもりで万引きをしている。

高齢者だけが多いのか、高齢で動作が鈍くなって捕まり易くなっているのか分からないが、高齢者が店員に捕まるのが非常に増えている。

昔であれば「高齢だしお金を払ってもらえばもういいか」と帰していただけで、店側が申告してくるようになったのかもしれない。

昔は、万引きは子どもがするというイメージがあったが、現在では高齢者の方が多く、お金はあるが、少しでもお金を浮かせたいという動機が多い。

【委員】認知症や、もう一度懲役に行きたいという理由ではないのか。

【警察】一応「払うのがもったいなかった」等の理由は言う。

ただ、自制が効かなくなってきたというのは、高齢が原因かもしれないが、認知症には至っていない。

【委員】横断にしてもそうだが、高齢者になると判断力がなくなり、待てなくて我慢が効かなくなり、横断するのではないか。

【委員】このタイミングで渡るのか、という高齢者もいる。

【委員】横断歩道ではないところでも横断者がいれば危険であり、車は一旦停止をすると思う。事故があれば車と歩行者のどちらが悪いのか。

【警察】過失割合の話であり、横断歩道がない所で横断者を轢いたからといって、轢いた側に責任がないことにはならない。

運転する時は、前を向いて安全を確認しながら走る義務があり、責任がある。

(2) その他

会 議
内 容

【委員】 方向指示器を曲がる直前に出す車や、カーブミラーを見ず、車が来ていても止まることなく曲がる車が多く、マナーの悪いドライバーが目立つ。

学区の夜回りを町内の方としているが、以前、夜回りの方に車が突っ込み2、3人の方が亡くなった事故があった。狭くて交通量の多い道路については、出来るだけ避けるようにしており、青パトの出番を増やそうと思っている。

【警察】 夜回りは非常に効果があるが、交通事故の危険性があるので、心配が残る。

無理はせず、危険なところは避けてもらうのが一番であり、安全な所をお願いしたい。

末永く続けてもらうためには、事故があってはいけないし、事故に遭うと、活動自体が出来なくなる。

【委員】 うちの学区では、元警察官が窓口となり、防犯推進委員のレディース隊を発足した。

9月の敬老イベントの舞台上で防犯推進の寸劇をするとのことで、特殊詐欺などの犯罪について、お年寄りや子どもに少しずつ広げるようにしていく。

他の学区でもレディース隊を作っていると思うが、警察からの依頼なのか。

【警察】 防犯推進委員会の会長から「レディース隊を作ってほしい」との要望があったと聞いている。

【警察】 レディース隊は府下にいくつかあり、女性だけでイベントをされると、また違ったアプローチがある。

お芝居などが得意なようである。

4 事務連絡

令和5年度第2回山科警察署協議会の開催日程は、令和5年9月下旬に実施予定とする。

以上

第1回京都府山科警察署協議会の開催状況

